



物理チャレンジ2007 ジャーナル

レゾナンス 第4号(8月2日発行)

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
広報委員会

表彰式



8月2日、閉会式を兼ねた表彰式が、開会式と同じく、つくば国際会議場で開催された。開会式ときには、緊張の面持ちだったチャレンジャーたちは、友人関係もできてすっかりリラックスモード。前夜には、話が弾んで、ほとんど一睡もしていない班も多かった。「物理チャレンジ」の目的の一つには、物理好きの友人をつくることにある。

主催者の挨拶



北原和夫物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長

来賓のご挨拶



橋本昌茨城県知事



市原健一 つくば市長

問題解説と答案講評



常深博理論問題部会長



小牧研一郎実験問題部会長



二人の先生からの明快な解説により、2日間のチャレンジの記憶は、しっかりと脳裏に固定されたことだろう。



優良賞は14名に贈られた。賞状を手渡したのは、物理チャレンジ・オリンピック日本委員会の並木雅俊副委員長と二宮正夫副委員長。

物理チャレンジ2007委員長特別賞



物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長特別賞は、最年少参加者(中学校3年)の村上さんに贈られた。

科学技術振興機構(JST)賞



科学技術振興機構賞は、女性のチャレンジャーのうち、優秀な成績を収めたひとに授与されるもので、行松泰宏理数学習支援部長から3名に贈られた。

物理チャレンジ2007銅賞



物理チャレンジ2007銅賞は、12名に贈られた。

賞状を手渡したのは、美宅成樹日本生物物理学会会長（代理）、有光敏彦現地実行部会長。メダルを授与したのは、興治文子理論問題部会委員、長谷川修司派遣委員会副委員長。

なお、山田翔太さんは事情により表彰式を欠席した。

物理チャレンジ2007銀賞



物理チャレンジ2007銀賞は、12名に贈られた。

賞状を手渡したのは、鹿児島誠一日本物理学会副会長、高橋憲明日本物理教育学会副会長。

メダルを授与したのは、有光直子現地実行部会委員、新井一郎現地実行部会副会長。

物理チャレンジ2007金賞



物理チャレンジ2007金賞は、7名に贈られた。

賞状を手渡したのは、北原和夫物理チャレンジ・オリンピック委員会委員長。

メダルを授与したのは、有馬朗人物理チャレンジ・オリンピック委員会顧問会議議長。

有馬顧問会議議長からの挨拶



金メダルを授与した有馬朗人顧問会議議長(元東京大学総長)から、チャレンジ参加者に対して、激励の挨拶があった。物理学、生物学など科学にはまだまだ分からないことがたくさんある。また、地球環境保全も差し迫った問題である。君たちにその解決に取り組んでももらいたい、との熱のこもった挨拶に、聴衆は咳き一つすることなく聞き入っていた。

茨城県知事賞



理論問題と実験問題を合わせて最高得点をあげた村下君に、茨城県の橋本昌知事より、「茨城県知事賞」が贈られた。

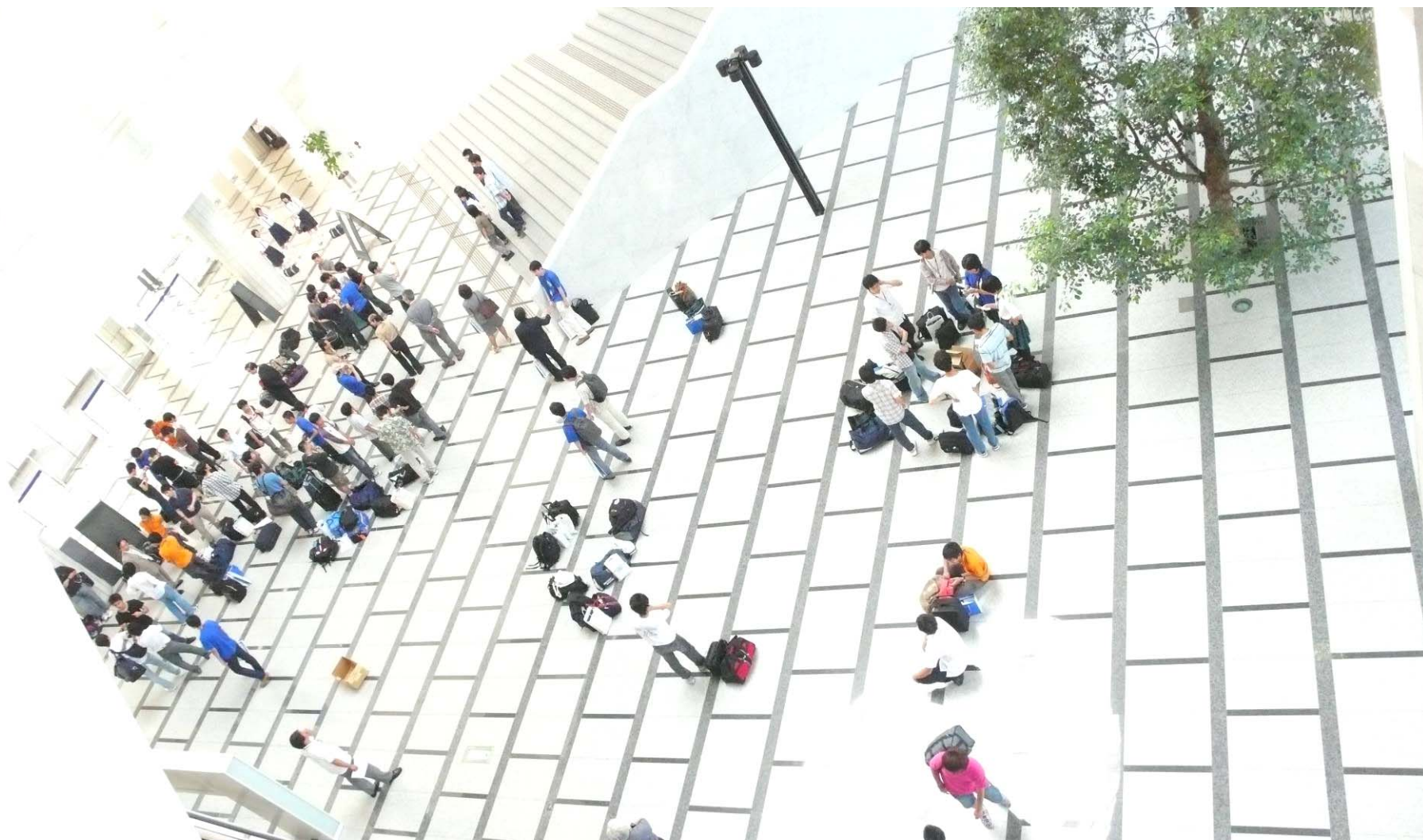
全体講評



表彰式のさいごに、有山正孝物理チャレンジ実行委員長から、全体を締め括る講評が行われた。

4日間にわたって、「トラメガ」を持って参加者を急かしてきていた、と皆なを笑わせた後、参加者全員の健闘を讃えつつ、物理チャレンジは単に試験を目的としたものではなく、先端科学を見る、第一線の研究者と語り合う、参加者相互のふれあいを大切しているものである。自分の採点では、ほぼその目的を達成できたものと思う。特に、J-PARCの見学は、運転が開始されてからでは内部を見ることは難しく、貴重な機会であったと考える、との話があった。

**「サイエンスツアー」を終えて「物理チャレンジ2007」は全日程を終了した。
また来年、今度は岡山で！**



編集後記



科学オリンピックでは、開催期間中、毎日、Newsletterが発行、配布される。Iran-Isfahanの大会では「Symmetry」と題するニュースが発刊された(写真左。日本代表のトラップを降りる光景が第1号の表紙を飾っている。)。オリンピックの形式に準ずることを旨とする物理チャレンジでも、4日間にわたり「レゾナンス(Resonance)＝共鳴」と称する日誌を会場・宿舎に掲示した。

即席のカメラマンと記者による「夜鍋仕事」で何とか間に合ったのは、デジカメ、パソコン、プリンターのおかげである。これらは、すべて応用物理の精華といえるだろう。

こうして、「物理チャレンジ」第2ステージは幕を閉じたが、チャレンジャーたちの物理の海への航海は始まったばかりである。次の目標をめざしての挑戦が続いていくことだろう。有馬先生が言われたように、何よりも健康に留意してがんばってほしい。